



## 感染症に負けないぞ!



前号でも述べましたが、コロナウイルス感染が世界中に拡大し、いつ終息するかわからない状況です。

今、私たちにできることは、丁寧な手洗いとうがい、電車やバスなどの大勢の中に入る時は、マスクの着用を徹底し、できうる限り予防に努めなければなりません。

一方で、栄養を十分に摂取し、健康な体であれば、ウイルスが入り込む隙間がないともいわれています。そういうわけでもありませんが、年中さんは、今年度、食育のまとめとして、育てた白菜を用いた調理を2月27日に実施しました。一人ひとりの子どもたちが上手に包丁を使って、白菜を切りました。先生が、ツナと和えて麺つゆで味付けをし、子どもでも食べられるように優しく調理すると、子どもたちは一人も残さずに、完食したようです。ご家庭でもトライしてみてください。

また、年中さんは、体づくりの一つとして、終園式を1週間後に控えた13日に、長縄跳び大会を実施しました。毎年、子どもたちは、長縄跳びを楽しんでいますが、大会形式で、自分の技を確かめたのは、私が赴任して初めての試みかと思えます。冬の暖かい日に、学級で楽しんでいた成果を発揮する日ということで、私も応援に行きました。子どもたちは凄いですね。どの子も、先ず、目標回数を宣言して、跳びますが、全員目標をクリアです。感心したのは、50回を宣言したK君は、軽快に跳んで、見事にクリアしたのです。みんなから、拍手を浴びたK君は、笑顔を見せ、達成感に満ちていました。

因みに、樋渡先生は見事に50回跳び、面目躍如と



いったところでしたが、私は30回になると、足元がふらつき、敢え無くダウンです。年齢だけの問題ではなく、我慢強さがなくなったことが分かりました。

## 未知への船出に希望あれ



9日の週に、2歳児さんが、コース毎にそれぞれの幼稚園を目指して、たんぼぼ学級を船出しました。

2歳児さんにしてみると、同じ幼稚園舎で過ごしたとは言え、幼稚園は、親子登園ではなく、独り立ちするための未知の世界です。

18日(水)には、74名の年長さんが、小学校という未知の世界へ船出しました。年少のころ母親恋しさに、門のところで後追いで泣いていたAちゃんやB君、転園児が来たら真っ先に声を掛けていたCちゃん給食では、1時間くらいかけて食べていたD君、かけっこ大好きだったF君、一人一人の様子が、まるで、昨日のここのように思い出されます。みんな、頭も心も体も大きく成長したなあというのが実感です。

卒園式の前日、うめ組の数名が、ぞろぞろと職員室へやって来ました。またいつもの、「先生、色紙ください」だろうと思って、子どもたちを背にして教頭先生と話をしていたら、突然、「園長先生!」と、声を掛けられました。振り向くと、整列して、「園長先生、長い間、ありがとうございます。」と挨拶するではありませんか。あまりの、サプライズに、涙腺が緩み、私も「どういたしまして」というのが精一杯でした。こうした成長した姿を見ると、小学校でも、健やかに成長していくのが目に浮かび、楽しみです。さあ、進め! 希望を持って未知の世界へ。

